



児童虐待防止協会設立30周年を迎えてのお礼

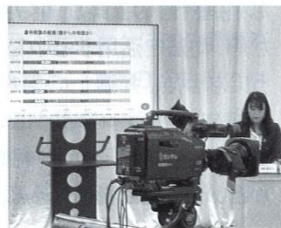
認定NPO法人児童虐待防止協会理事長 津崎 哲郎

当協会は、1990年に日本で初の児童虐待防止に特化した民間団体として、医療・保健・福祉・心理・教育・司法等の各分野の専門職が結集して設立され、その後の全国の民間活動立ち上げの先駆者としての役割を果たしてきました。そして、今年で設立30周年を迎えるに至りました。

当協会の活動は、設立当初からの「子どもの虐待ホットライン」に限らず、保健所とタイアップした母親のグループワーク、大阪府をはじめとする各自治体の専門職員の研修の受託や講師派遣、協会独自の研修会の開催、市区町村の要保護児童対策地域協議会へのスーパーバイザー派遣、大阪府内～関西を中心とする関係機関との懇話会、高校等と連携した学生向け啓発活動など、多岐にわたる

活動を展開して参りました。

今日まで活動を継続し得たのは、資金面で多大な支援をいただき、活動の広報にも協力いただいた関西テレビ様によるところが大きいですが、それだけでなく、多くの事業活動を担っていただいた、各種専門職スタッフ、事務職スタッフ、有償・無償ボランティア、協会会員、ご寄付支援者等々のご協力があったの賜物と、ここに深く感謝申し上げます。また、おかげさまで10月24日には創立30周年記念フォーラムを、関西テレビ様と共催の形でオンラインにて実施、多くの参加者を得て成功裏に終えることができました。本当にありがとうございました。



児童虐待防止協会設立30周年記念フォーラムのご報告

令和2年10月24日、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、児童虐待防止協会設立30周年記念フォーラムはインターネット配信による開催となりました。

津崎理事長による開会の挨拶に続き、第一部では「児童虐待防止の30年を映像で振り返る」と題して、協会設立当初の電話相談や当時の理事のインタビューなど貴重な映像を理事長と、当初の関西テレビ児童虐待防止キャンペーンにアナウンサーとして関わられた片山三喜子氏と共に振り返ることができました。虐待を止められないと語る母の映像からは、子どもを虐待することが苦しいけれどやめられない葛藤がリアルに映し出され、児童虐待という言葉がまだ社会に浸透していないなかにもかかわらず、協会や関西テレビ放送がいち早く取り組みを始めてきたことの意義が理解できたのではないかと思います。

第二部シンポジウムの大阪府立大学 伊藤嘉余子氏による「共に子育てを担う社会へ～体罰を用いずにすむ子育て

をどう育むか～」という基調講演では、虐待の定義の解説から始まり、虐待の要因では親の孤立が大きく影響することや虐待によって子どもの脳に変異が起こっていること、さらに貧困・虐待など「困難の連鎖」を防ぐ6つのS (safe/secure/solution/self-esteem/safety net/smile/satisfaction) の地域づくりに何が必要であるかについてお話をいただきました。基調講演に引き続き、山口照美氏(大阪市生野区長/生野区担当教育次長)、野中泉氏(社会福祉法人アトム共同福祉会 アトム共同保育園園長)、山野泰弘氏(児童心理治療施設「希望の杜」施設長)を迎えてパネルディスカッションが行われました。まずそれぞれの立場からのお話があり、今まさに起こっている子どもや親の抱える課題や問題を正面から受け止めている様子や、葛藤を抱えつつ試行錯誤を繰り返しながら、子どもや家庭を支えるために一緒に考え行動するという強いメッセージが伝わりました。さらに支援者支援について、支援者の

あり様についても示唆いただきました。

最後に関西テレビ放送の取締役相談役 福井澄郎氏より閉会の挨拶がありました。児童虐待防止キャンペーンを立ち上げようとされた経緯や児童虐待防止協会との30年に及ぶ関りには深いご縁を感じます。おりしも協会30周年はコロナ感染拡大の中でありました。このフォーラムも通常の開催が危ぶまれる中、協会の運営に携わる専門職や関西テレビ放送の連携と協働により実現し、全国から500

名以上の参加があったことは困難の中にあって新たな可能性が見いだせたとの思いです。

フォーラムを通じて多くの方々に支えられて30周年を迎えられたことに感謝を申し上げますとともに、今までとこれからの児童虐待防止や子どもや親、その養育に関わる皆様に敬意を表して、フォーラムの報告とさせていただきます。

〈お詫び〉フォーラム再配信については、ご案内していた当日の再配信ができず、1週間後となりました。誠に申し訳ございませんでした。